

# 第50回記念 医学教育セミナーとワークショップ

## 開催要項・参加者募集

新しい医学教育の開発と普及を目的とし、全国の医療教育関係者の皆様と歩んできた医学教育セミナーとワークショップは、お陰さまで第50回を迎えることができました。厚く御礼申し上げますとともに、皆様のご参加を心よりお待ちしております。  
岐阜大学医学教育開発研究センター 鈴木康之



日程: **2013年11月1日(金)～3日(日)**

会場: 岐阜大学サテライトキャンパス/じゅうろくプラザ(JR岐阜駅至近)

2013  
秋  
50回記念

Lecture **終着駅のない旅**:現場での指導者育成とコミュニティの形成  
講師: Yvonne Steinert (McGill University)



Symposium **境界と壁を超える**:職種間連携の実践と社会学的考察  
講師: Susan Bridges (University of Hong Kong)、吉村 学(揖斐郡北西部地域医療センター)



Round Table **発信する医療教育**:部門発展、研究推進、キャリア開発  
講師: 伴 信太郎(日本医学教育学会理事長/名古屋大)、錦織 宏(京都大)  
Yvonne Steinert, Susan Bridges 他

- WS-1 情動をはくむ教育:理論から教育実践とその評価まで
- WS-2 医療教育研究のスタートを洗練する
- WS-3 魅力あるワークショップの構築とその評価
- WS-4 医学教育を科学する
- WS-5 対応が困難な学習者/個性的な学習者と共に学ぶ
- WS-6 Moodle を学ぼう
- WS-7 すぐに身に付くフレキシブルな指導方法をマスターしよう
- WS-8 会話を分析する:談話分析法
- WS-9 職場での研修生のケアとメンタリング
- WS-10 聴衆反応システムを用いて授業をもっと双方向性にする

プログラム							
1日(金)	15:00-18:00	Round Table					
2日(土)	10:00-12:00	Symposium					
	13:00-16:45	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4	WS-5	WS-6
	17:00-18:30	Lecture					
	18:45-20:30	懇親会					
3日(日)	9:00-12:45	WS-1	WS-2	WS-7	WS-8	WS-9	WS-10



医学教育共同利用拠点:  
岐阜大学医学教育開発研究センター  
Tel: 058-230-6470  
email: medc@gifu-u.ac.jp

MEDC

検索

## Lecture 終着駅のない旅 : 現場での指導者育成とコミュニティの形成

11/2(土) 17:00-

講師: Yvonne Steinert (McGill University, Centre for Medical Education)

概要: 教員/スタッフ養成は医学教育においてますます重要な領域となり、今や多くの医療教育機関が講義やワークショップ、短期コース等、なんらかの教育活動を提供しています。本セッションでは、教育における個人や組織の開発を含めた教員/スタッフ養成の重要性、及び如何にして教育者を増やし、教育能力を伸ばすかその方法について議論します。一方、教育マインド涵養のきっかけは、教育に関するちょっとした経験や観察、同僚との会話や振り返り、または学習者との交流といった、公式のプログラム以外にも散りばめられています。そのような現場での“コミュニティ”で教育をシェアする意義についても知見を交えながら議論を展開します。

\* 演者の数々の論文や経験の紹介の他、講義の途中に日本語による質疑・意見交換の時間を十分設けております。

## Symposium 境界と壁を超える : 職種間連携の実践と社会学的考察

11/2(土) 10:00-

講師: Susan Bridges (University of Hong Kong)、吉村 学 (揖斐郡北西部地域医療センター)

概要: 世界医学教育連盟 (WFME) がそのグローバルスタンダードにおいて強調しているように、保健医療関連部門を中心とした他学部教員との協働や専門職連携教育の開発は、医学教育において必須の導入領域です。しかしそこには、個人間、職種間、講座間、そして学部間と様々な「境界や壁」が存在します。今回のシンポジウムでは、ご経験の深い演者をお招きし、様々な観点から「境界や壁を超える」ためのティップスや難しさについて、卒前はもとより卒後教育も視野に参加者の皆様と一緒に考えます。「カリキュラム改革」ではSusan Bridges先生に、香港大学におけるカリキュラム改革のプロセス、及び「教育学者」として医療系教員とカリキュラム改革を実践してきた職種間連携の経験をお話しいたします。また「ごちゃまぜ! 職種間連携と医療者教育」では吉村学先生に、地域医療における多職種協働と教育-そこからみえてくるものをご紹介いただきます。

\* 質疑応答や意見交換は、原則日本語により行われ、オープンディスカッションの時間をセッションの間に設けております。

## Round Table 発信する医療教育 : 部門発展、研究推進、キャリア開発

11/1(金) 15:00-

講師: 伴 信太郎 (日本医学教育学会理事長/名古屋大)、錦織 宏 (京都大)、Yvonne Steinert (McGill University)、Susan Bridges (University of Hong Kong) 他

概要: 世界的潮流を受け、我が国の医療教育は発展の一途であり、さらには国際認証に耐えうる医学教育の提供や、スカラシップ (学識) を伴う医療教育の開発が世界から期待され、大きな変革期が差し迫っています。医学教育部門や卒後研修センターによる、より活発な教育の推進や改革が喫緊の課題になり、医療教育者には、高い専門性と実務性が求められる時代になりました。本企画では、①21世紀における医学教育部門の役割、②医療教育におけるキャリア形成、③医療教育研究の推進、④非医療者とのコラボレーション、のトピックについて、各領域で活発に取り組んでおられる国内外の先駆者の方々と共に議論を深めます。

対象: 医療教育に関心のある全ての方

## WS-1 情動をはくむ教育: 理論から教育実践とその評価まで

11/2(土) 13:00-、11/3(日) 9:00-

企画: 阿部恵子・青松棟吉 (名古屋大)、藤崎和彦 (MEDC)

概要: 患者中心の医療を実践するため、患者の気持ちに寄り添い共感することが重要です。また感情の渦巻く臨床現場では、医療者自身が感情をコントロールし適切に患者の感情に対応する能力が求められます。この情動能力は生来のものではなく、臨床経験や教育の影響を受けることが知られています。本WSでは情動能力の理論的背景を概観した後、私達が妥当性を検証したTEIQue-SF (Trait Emotional Intelligence Questionnaire short form) とCARE (Consultation and Relational Empathy) measureを用いた教育介入の成果を共有し、参加者が自施設で行うカリキュラム案作成を目指します。

対象: 医療コミュニケーションの教育にあたる教員や医療従事者 定員: 20名

## WS-2 医療教育研究のスタートを洗練する

11/2(土) 13:00-、11/3(日) 9:00-

企画: 日本医学教育学会・教育研究委員会 (鈴木康之、大滝純司、伊藤俊之、石川ひろの、向原 圭、錦織 宏、尾原晴雄、西城卓也)

概要: 医療教育研究はますます盛んになっています。何か調べようと、いざデータを取り始める前に、踏むべき基本的ステップがいくつかあります。研究テーマを決めたとして、先行研究をどうやって検索するのか? どうやってリサーチエスチョンを洗練させるのか? どのような方法で調査したらいいか? やる事が盛りだくさんで最初から躓いてしまいがちです。本WSでは、文献検索やリサーチエスチョンを立てるプロセスと方法論の選択に関する基本楽しく学び、参加者とタスクが協力して個々のニーズに合わせて研究をブラッシュアップすることを目指します。

対象: 医療教育研究について関心があり、これから研究を考えようとしている方 (昨年度の本委員会WSに参加された方も歓迎です) 定員: 16名

## WS-3 魅力あるワークショップの構築とその評価

11/2(土) 13:00-

企画: Yvonne Steinert (McGill University)、西城卓也 (MEDC)

概要: ワークショップは、いまやかなり市民権を得た教育方法となりましたが、どうすれば成功するのかその方法論、さらにはその評価方法となるとまだ新しいテーマです。本WSでは、WSのデザインと評価についての概略を議論します。その後、ニーズアセスメント、ゴールの設定と定義、教育内容の選択とそれらに見合うオンラインストラクショナルデザインの決め方について掘り下げます。評価法に関しては、その目的や異なるレベルのプログラム評価、活用できるアウトカムの評価方法について焦点を当てます。最終的には参加者の皆様、学生や研修医もしくは同僚のため、各自で計画もしくは改善しようとしているWSについて検討し、学んだことを応用できるようになることを期待しています。

対象: ワークショップを実践・企画される/予定の方、もしくはその評価・研究に関心のある方 定員: 30名

## WS-4 医学教育を科学する

11/2(土) 13:00-

企画: 錦織 宏 (京都大)、春田淳志 (東京大)

概要: 医学教育に関するアカデミックな活動に展開するための具体的な戦略について取り上げます。グループに分かれていくつかのテーマについて議論をする中で疑問点を明確化し、それらについて全体セッションで講師とともに議論を進めます。テーマとしては「国内外の医学/医療者教育学会で発表/参加する」「海外のマスタープログラムや短期コースなどで医学/医療者教育学を勉強する」「医学/医療者教育研究を実施して論文をPublishする」「国内外の医学/医療者教育者と研究でコラボする」などを予定しています。またReflective Medical Teacherという概念を用いて、現場で求められる医学教育者のイメージについても考えます。事前に簡単なアンケートをお願いさせて頂く予定です。

対象: 医学教育に関するアカデミックな活動に関心のある方 定員: 30名



## WS-5 対応が困難な学習者／個性的な学習者と共に学ぶ

11/2(土) 13:00-

企画：川上ちひろ (MEDC)、中村和彦 (弘前大)、西村優紀美 (高山大)

概要：「コミュニケーションがうまくとれない」「対人関係でトラブルを起こすことが多い」など、学習者にかかわるなかでこのように感じた経験はないでしょうか。このような学習者と出会った場合、「患者さんとトラブルにならなければいいが・・・」「この学習者にどのように対応すればいいのだろうか」と悩む支援者(教職員)は多いことと思います。支援者側が対応に悩む学習者の背景には、たとえば微細な発達障害等の精神疾患がある、身体機能的な障害がある、一時的に家庭などの生活の状況が影響している等、様々な理由があります。しかし日本の医療教育の中では、このような学習者の背景に対しての適切な対応方法の構築は十分になされていません。本WSでは、まず学習者の状況を理解するためのフレームを提示し、精神疾患を抱える学習者への対応方法の情報を、経験のある専門家とともに共有します。そして参加者の皆様がどのような学習者に困っているか、どのような対応を取れば効果的かについて、交流できる場にしたいと考えています。

対象：医療者教育にかかわっている教員、事務職員等 定員：30名

\* WS-9は主に卒業教育に、WS-5は主に卒業前教育に焦点を置いていますが、それぞれ補完性が有ります。連続して参加されても学べます。

## WS-6 Moodle を学ぼう

11/2(土) 13:00-

企画：浅田義和 (自治医大)

概要：時間と場所に影響されない学習・教育の手法として、eラーニングの利用が広がってきています。2012年には、第43回医学教育セミナーとワークショップに同時開催の形で「第6回医療系eラーニング全国交流会」が開催されるなど、その利用方法や教育効果に関する関心が高まっています。本WSでは、無償で利用可能なLMS (Learning Management System) であるmoodleの利用方法を学びます。4時間という短い枠ですが、moodleの機能紹介の概略の説明から、参加者が応用できるような簡単なコース作成方法まで、講義と演習の形式を交えて、楽しく交流しながら実践できるようにしていきます。

対象：eラーニングに興味がある・moodleを使ってみたい・自分の授業をeラーニング上で展開してみたい方 定員：20名

## WS-7 すぐに身に付くフレキシブルな指導方法をマスターしよう

11/3(日) 9:00-

企画：任 和子 (京都大)、谷口初美 (九州大)、内海桃絵・内藤知佐子 (京都大)

概要：5~6名のグループに分かれ各施設における取り組みや指導者が抱える悩みを共有した後、企画者が演じる指導場面の様子についてPF-NOTE (ビデオフィードバックシステム) を用いて評価、ディスカッションを行います。そのあと、看護教育のなかでは未だあまり知られていない1分間指導法を紹介し、各グループでこれまでの指導場面と改善例を具体的に作成してもらい、ロールプレイを行うと同時に指導法についてお互いを評価します。1分間指導法の最初のステップである「意見を聞く」ということは、相手の思考過程を探る大事な作業であり適切な指導を行うための大事な要素となります。今回は、これまでの指導法を振り返るとともに、明日から使える指導法を習得してもらうためロールプレイと評価を繰り返しながらより実践的なトレーニングを行います。

対象：臨床で教育的関わりを担っている看護師 定員：30名

## WS-8 会話を分析する: 談話分析法

11/3(日) 9:00-

企画：Susan Bridges (University of Hong Kong)、今福輪太郎 (MEDC)

概要：談話分析 (Discourse Analysis) は、社会的に構成された現象の“内部”を検証する質的研究手法の1つです。この意味で、医学・医療者教育での複雑な学習過程を解明するための鍵となる研究アプローチといえます。医療教育の分野で例えて言えば、「学習者が学生中心の学習環境下で他者とのインタラクションを通して、どのように学習に参加しているのか」また「なぜそのように参加したのか」がその学習者の対話を通じて、この談話分析法により明らかにすることが出来ます。今回のWSでは、日本の医学教育場面での会話データ (日本語) と香港大学歯学部で実施したインタビューデータ (英語) の分析体験や半構造化インタビューの計画・ロールプレイを通して、談話分析研究の実践的な方法を学び、その課題について考えていきたいと思えます。

対象：談話分析を用いた研究に関心のある方 (経験は問いません) 定員：20名

## WS-9 職場での研修生のケアとメンタリング

11/3(日) 9:00-

企画：尾原晴雄 (沖縄中部病院)、江村 正 (佐賀大)、川上ちひろ (MEDC)、青野真弓 (聖路加国際病院)

概要：近年、医学教育の文脈でもメンタリングという言葉が注目を集めています。研修医の成長を継続的に見守ること、研修医の希望に応じたキャリア形成を支援すること、十分なパフォーマンスを発揮できない研修医や体調を崩して休職が必要な研修医の早期発見と適切な対応を行うことは、臨床研修病院にとって重要な課題となっています。本WSでは、まず参加者同士が自施設での研修医のサポート体制について困っていることを共有し、問題点の明確化を行います。その後、日本の卒業教育におけるメンタリングの定義やその役割について理解を深めます。さらに、個人間のインフォーマルなメンタリングから組織的なメンタリング制度の導入や実践についての意見交換を通じて、自施設での研修医サポート体制構築につながるアイデアを持ち帰っていただきたいと思います。

対象：研修医教育に関わっている全ての方、メンタリングについて学びたい方 定員：30名

\* WS-5は主に卒業前教育に、WS-9は主に卒業教育に焦点を置いていますが、それぞれ補完性が有ります。連続して参加されても学べます。

## WS-10 聴衆反応システムを用いて授業をもっと双方向性にする

11/3(日) 9:00-

企画：松本尚浩 (東京慈恵会医大)

概要：双方向的な授業のために聴衆反応システム (Classroom Response System: CRS) を役立てる実践を学びます。特にこのWSでは効果的・効率的・魅力的な学びの場を創るインストラクショナル・システムズ・デザイン (ISD) の考え方を応用します。学習内容としては、①授業をクイズで開始する、②授業途中にクイズ・アンケートで理解度を確認する、③授業終了時のクイズで100%正解を目指す、④授業後に自己学習する動機づけが促進したかアンケートをする、等についてそのコツや方法を学びます。

対象：医療学生生授業担当者。CRSのソフトウェアの都合上、OSがWindows7以前 (Windows8では動作未確認)、パワーポイント2010以前 (2013は動作未確認) のバージョンが使用できるパソコンをお持ちください。 定員：50名

# 参加登録方法

**事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。**

「MEDC」で簡単検索できます。

**締め切り：2013年10月20日（日）**

ホームページからお申し込みできない方は、FAX（058-230-6468）でご連絡ください。  
会場の都合で、各ワークショップに定員を設けております。  
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

**参加費： 2,000円（資料代）学部学生無料**

**懇親会費：別途徴収いたします**

受付時に徴収いたします。

資料代は、資料作成ならびに報告書「新しい医学教育の流れ」の作成の一部に使用いたします。

参加者には後日、報告書を送付いたします。（学部学生は報告書の送付はありません）

**会場：じゅうろくプラザ（5階）**

**岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜スカイウイング37東棟4階）**



**じゅうろくプラザ**

〒500-8856 岐阜市橋本町1丁目10番地11

※岐阜駅2階周辺歩行者用デッキから直結

**岐阜スカイウイング37**

〒500-8844 岐阜市吉野町6丁目31番地

※岐阜駅2階周辺歩行者用デッキから直結